

お客様への約束

研究開発の取り組み

お客様にとって最高の製品をお届けするために、タダノの開発者は、現場に足を運び、自分の目と耳で現物・現実を確認し、真のお客様の声を聞いて考えます。「お客様のお役に立つ製品を作りたい。使いやすさと安心感を提供し続けたい。」そんな思いが、新しい機能の開発に挑戦する原動力となっています。

京都大学と包括連携共同研究の契約を締結

当社の技術と、京都大学の機械工学・社会工学・都市工学・情報科学等に関する最先端の学術的知見を組み合わせるべく、2018年3月に契約を締結しました。建設作業の安全性と生産性を向上させるイノベーション創出を目指します。



低温試験棟の開設

製品の活躍がグローバルに広がる中、極寒・灼熱の地では想定より動作が遅くなったり、予期せぬ現象が起きることもあります。コアバリューに更なる磨きをかけるためにも、過酷な温度環境の中で製品を動かして試験できる設備が必要と考え、2016年、志度工場に建設しました。室内温度はマイナス40度からプラス60度まで変化し、さまざまな試験が可能です。



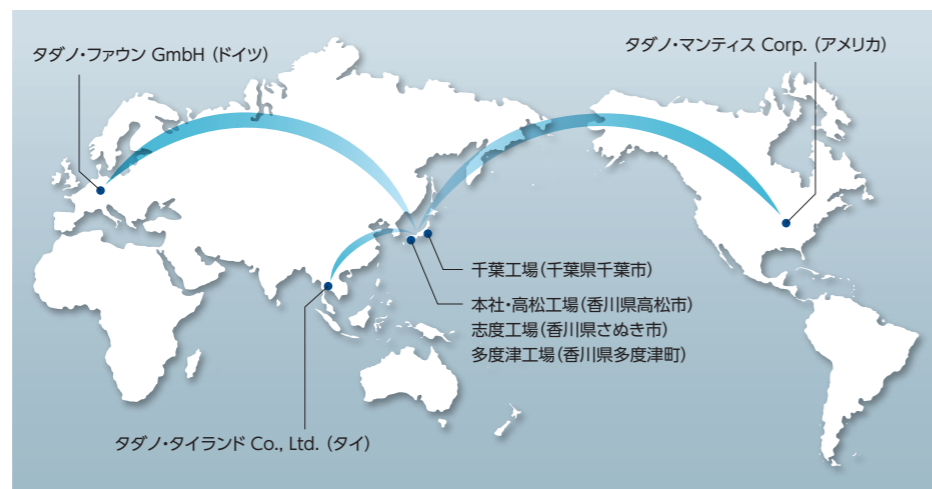
ベンチャーキャピタルファンドへ出資

みやこ京大イノベーション投資事業有限責任組合(みやこキャピタル(株)運営:京都市)に、2017年12月に3億円を出資しました。独自技術を持つ研究開発型ベンチャー企業とのネットワークを獲得し、オープンイノベーションに取り組んでいきます。

グローバル生産体制と品質向上への取り組み

グローバル生産体制を構築

日本をマザー工場に位置づけながら、ドイツ、アメリカ、タイと、それぞれのニーズにあった製品を生産し、生産効率とコスト競争力に優れたグローバル生産体制を構築しています。日本流のものづくりを海外拠点でも浸透させて「世界統一品質」を作り、タダノブランドへの信頼を高めることを目指しています。また部品を相互に供給するクロスソーシングを推進し、品質と効率の更なる向上に取り組んでいます。



品質向上への取り組み

複雑で繊細な機械のクレーンは経験学的な要素が多く、「人の技術や技能の向上」が品質の大きな鍵となります。「専門技能の習得」と「多能工化」という二つの側面から人財育成を推進し、品質向上と多能工化による効率的な生産を実現しています。

当社は1996年に品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001の認証を取得しました。同時に

開発の初期段階から、また万一市場で品質問題が発生した場合の迅速な対応に至るまで、お客様に満足をお届け続けられるように業務プロセスを革新しました。生産部門では、2007年から「コアバリュー活動」を導入し、管理ボードの運営などによる日々の品質状況のみ見える化と改善への取組み(PDCAサイクル)を、全生産拠点で展開しています。



社員との約束

健康経営への取り組み

社員の成長こそが、長期目標達成の原動力であり、社員の成長なくして企業の成長はありません。社員一人ひとりが良い仕事をし、良い人生を歩むためには、心と身体の健康が重要と捉え、「健康経営宣言」を制定しました。

健康経営優良法人に認定

当社は1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、社内に設置した「体力増進センター」を社員と家族に開放するなど、健康文化の育成に取り組んできました。2018年2月には、経済産業省・日本健康会議において発表された「健康経営優良法人2018(大規模法人部門)~ホワイト500~」に認定されました。



健康経営宣言

タダノは、1981年に「心とからだの健康づくり運動」をスタートし、積み重ねてきた「健康文化」があります。その「健康文化」を継続し更に発展させていくために、社員一人ひとりの「心とからだの健康づくり」を大切に、活き活きと働ける明るい職場づくりに、組織全体で取り組むことを宣言します。

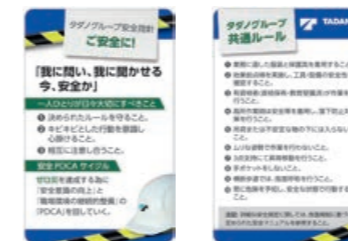
2018年5月

代表取締役社長 多田野宏一

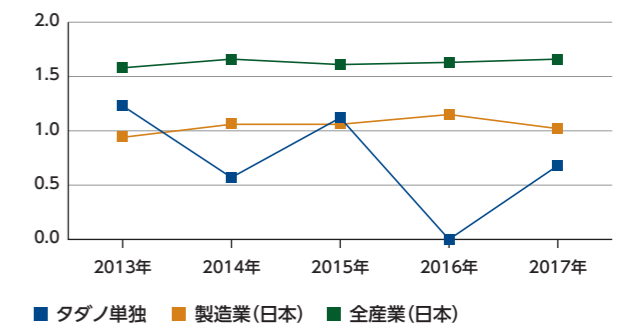
労働環境への取り組み

タダノグループ安全指針の策定

グループ社員の更なる安全意識の向上を目指して、2017年12月に「安全指針カード」を作成しました。表面に「安全への思い」を、裏面には「タダノグループ共通ルール」を掲載しています。本カードは、日本語、英語、ドイツ語、フランス語、タイ語の5カ国語で作成し、グループ全社員に配布しています。



労働災害の発生状況(度数率*)



*100万のべ実労働時間あたりの労働災害件数で、休業災害発生頻度を表します。(製造業及び全産業(総合工業系除く)の数値は厚生労働省労働災害動向調査から引用)

人財育成・ダイバーシティの推進

TQM活動

「目指すべき未来(理念・目標)は、日々の仕事(=プロセス)の積み重ねで実現できる」との考えのもと、2011年にTQM推進委員会を設置し、「タダノウェイの浸透・共有」「方針管理・日常管理の徹底」「改善力強化と人財育成」の3つの活動を進めてきました。

タダノウェイとは、歴代の経営者、先輩社員たちが語った「私たちが大切にしたい考え方・行動」をまとめたものです。グループ社員みんなが共有することで、One Tadanoを目指します。また上司、同僚、部下と一緒に考える場として「ウェイミーティング」と称したコミュニケーションの場を設けています。



ダイバーシティの推進

「企業は人なり。人の成長なくして、企業の成長なし」「人は財産(=人財)」という考えのもと、人財育成を大切にしています。

ダイバーシティの推進にも努めており、2016年には、女性の活躍を推進する行動計画を策定しました。現在、タダノ単独では社員の7%を占めるにとどまっている「女性社員比率」を、10年後には10%にするため、計画的な採用を進めるとともに、次世代リーダーとして活躍できるよう研修の受講機会を増やすなど、女性が活躍できる環境整備・職場配置を進めています。

取引先との約束

基本的な考え方～購買先との共生

私たちは、全ての購買先と強い信頼関係を築き、お互いに成長できるよう努めています。タダノグループCSR規範では以下のような考え方を定めています。

タダノグループCSR規範より(抜粋)

- ① 私たちは、すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づき、独占禁止法等の関係法令を遵守した公正な取引を行います。
- ② 私たちは、談合やカルテル行為・公正かつ自由な競争を阻害する行為・自由な競争の制限につながる会合等への参加や情報交換及び疑惑を招くような行為を行いません。
- ③ 私たちは、資材等の調達先及び協力先に対し、優位的な地位を利用して不当な不利益を及ぼすような行為、取引を行いません。
- ④ 私たちは、調達等に関する職務に関連して、個人的な利益や便宜の供与を受けません。
- ⑤ 私たちは、取引先等との接待、贈答品の授受に関して、健全な商習慣や社会通念に従って行います。

また、当社ではSOC4物質の不使用など「環境に優しい製品づくり」を進めており、購買先にも理解・協力をいただいています。

基本的な考え方～購買先との共生

競合他社に負けない技術・能力を持ち、21世紀に生き残れる自立した提案型団体になることを目指し、1994年に購買先と当社にて「タダノ協栄会」を発足しました。発足から現在まで、購買先と長期的な信頼関係を結び、お互いに成長発展を続けてきました。会員企業は合計58社(2018年4月時点)で、活動としては安全研修会、改善活動発表会、工場見学会、SVEカンファレンスなどを毎年実施しています。また、優良な購買先への表彰も毎年行っています。



協栄会メンバーの工場見学会



購買先の年度表彰

Win-Winの関係を旨として ～「四位一体のSVE活動」の推進

よりよい製品を開発・生産するために、購買先とタダノの3部門(開発・生産・購買)がまさに「四位一体」となって、2009年からSVE活動を推進しています。SVEとは当社独自の活動で、VEに「S(Super and Sustainable)」を付け、今までのVE活動を超越する活動として、永続的に将来に向かって力強く継続できる活動にしたいという思いが込められています。

SCOOP活動

SVE活動の中核を担う「SCOOP(Super Cooperation/素晴らしい協業)活動」は、2011年からスタートし、購買先とともに個別のテーマ・目標を設定し、お互いの強みや特性を活かしながら価値・機能向上やコスト削減に取り組む活動です。

SVEカンファレンス

SVE活動を更に大きくかつ継続できる活動とするために、2012年から「SVEカンファレンス」を年に2回開催しています。2018年4月20日に開催された「第13回SVEカンファレンス」では、40社80名の購買先と、タダノグループより役員を含む92名の計172名が参加しました。今回のカンファレンスでは「SCOOP活動」に関する5つのテーマについて発表がありました。

テーマの一例(第13回SVEカンファレンスより)

- キャリアフレームのデザインイン活動
- ウィンチ用カウンタバランス弁の圧力損失低減
- キャブ内配線工程のVE活動
- 上部油圧機器のユニット化
- 3D-CADデータのさらなる活用



SVEカンファレンス(購買先の発表)

株主・投資家への約束

当社のIR方針について

タダノグループCSR憲章・規範では、株主・投資家の皆さまを重要なステークホルダーの1つと位置づけ、「株主・投資家の資産価値を高めるよう業績の向上と長期的かつ安定的成長に努めます」と約束しています。

私たちはすべてのステークホルダーに対し、関係法令の遵守はもとより、経営や事業活動状況など企業情報を適時かつ適切に開示します。具体的には、東京証券取引所が提供する「適時開示情報伝達システム(TDnet)」を通じて開示するとともに、内容に応じてニュースリリースの発信や当社ウェブサイトへの掲載しています。

また東京にて「アナリスト決算説明会」を年2回開催し、社長自ら決算の状況や当社事業の方向性について説明しています。また機関投資家の皆さまをはじめとする企業訪問や工場見学も積極的に

受け入れています。

なお当社は、決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、本決算ならびに四半期ごとの決算期日の翌日から決算発表日までを「沈黙期間」とし、決算に関する問い合わせへの回答やコメント等を差し控えています。



アナリスト決算説明会(東京)

IRカレンダー

イベント	2018年度	2017年度(参考)
2018年3月期 決算発表	2018年 4月27日	2017年 4月28日
アナリスト決算説明会(東京にて)	2018年 5月15日	2017年 5月15日
第70回 定時株主総会	2018年 6月26日	2017年 6月27日
2019年3月期 第1四半期業績発表	2018年 7月31日	2017年 7月31日
2019年3月期 中間決算発表	2018年10月下旬	2017年10月30日
アナリスト中間決算説明会(東京にて)	2018年11月中旬	2017年11月8日
2019年3月期 第3四半期業績発表	2019年 1月下旬	2018年 1月31日

アナリスト・カバレッジについて

タダノの業績などを分析し、当社株式の推奨、論評などを行っている証券会社のアナリストの方々をご紹介します。(2018年3月末時点)

社名(50音順)	アナリスト氏名
株式会社いちよし経済研究所	高辻 成彦 氏
CLSA証券株式会社	エドワード ボーレー 氏
JPモルガン証券株式会社	佐野 友彦 氏
株式会社東海東京調査センター	大平 光行 氏
マッコーリキャピタル証券株式会社	境田 邦夫 氏
みずほ証券株式会社	星 学 氏
モルガン・スタンレーMUFG証券株式会社	井原 芳直 氏

<注意事項>

- この一覧は、掲載時点で当社が入手可能な情報に基づいて、当社に関するレポートの発行を確認できる証券アナリストの方々を掲載しています。従って、この一覧には掲載していないアナリストも存在し得ること、またすべての情報が最新ではない可能性があることを、あらかじめお断りしておきます。
- この一覧の掲載に関しては、当社の業績などを分析、予測する企業または調査機関のアナリストの情報を紹介するという趣旨のみで掲載しており、当社株式の売買を勧誘するものではありません。
- この一覧のアナリスト、およびこの一覧に掲載されていないアナリストは、定期または不定期に、独自の判断に基づいて当社の業績、事業、製品、技術などを分析し、あるいは業績を予測しております。それらのいかなる過程にも、当社または当社の経営陣は一切関与していません。実際の投資に際しては、ご自身の判断で行われるようお願い致します。

社会への約束

当社は2005年にCSR委員会を設置し、CSRの推進・浸透に取り組んでいます。タダノグループは「企業が社会や人との調和の中で生かされている存在」との認識のもと、地域社会・国際社会発展への貢献と地球環境の保全に役立つ事業活動を推進し、全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化することで「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指します。この理念にもとづき、2006年に企業の行動指針としての「CSR憲章」と、これを実行するための社員個人の行動指針「CSR規範」を制定しました。

「創造・奉仕・協力」の経営理念にもとづき、「タダノにしかできない社会貢献」を通じて、社会のお役に立てればと考えています。

CSR憲章

私たちタダノグループは、「企業が社会や人との調和の中で生かされている存在」との認識のもと、地域社会・国際社会発展への貢献と地球環境の保全に役立つ事業活動を推進し、全てのステークホルダーの期待に応え、企業価値を最大化することで、「世界に、そして未来に誇れる企業」を目指します。

- 一. お客様事業価値の向上
私たちは、安全と品質に配慮した製品・サービス・システムをお届けし、お客様の事業価値向上に努めます。
- 一. 投資価値の維持・向上
私たちは、株主・投資家の資産価値を高めるよう業績の向上と長期的かつ安定成長に努めます。
- 一. 新しい技術への挑戦
私たちは、お客様に感動して頂けるような独創性溢れる製品・サービス・システムづくりに挑戦します。
- 一. 社会との共生
私たちは、よき企業市民として、国・地域等の法令、慣習、文化を尊重し、その発展に寄与する事業活動に努めます。
- 一. 誠実な事業活動
私たちは、公正で透明性のある誠実な事業活動に努めます。
- 一. 地球環境との調和
私たちは、全ての事業プロセスにおいて地球環境との調和に努めます。
- 一. 社員の尊重
私たちは、社員一人ひとりの個性を尊重し、活き活きと働ける健康な明るい職場づくりに努めます。
- 一. 適切なコミュニケーション活動
私たちは、よきパートナーである全てのステークホルダーに対し、正確な情報を適時、適切なコミュニケーション方法で開示し、長期的な信頼関係の維持に努めます。
- 一. 取引先との共生
私たちは、全ての取引先と強い信頼関係を築き、互いに成長し、共生するよう努めます。



環境への取り組み

タダノグループは、地球環境を保全し持続可能な社会づくりに貢献するための取り組みを推進しています。2008年には環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得し、製品のみならず事業活動においても環境負荷低減への取り組みを進めています。

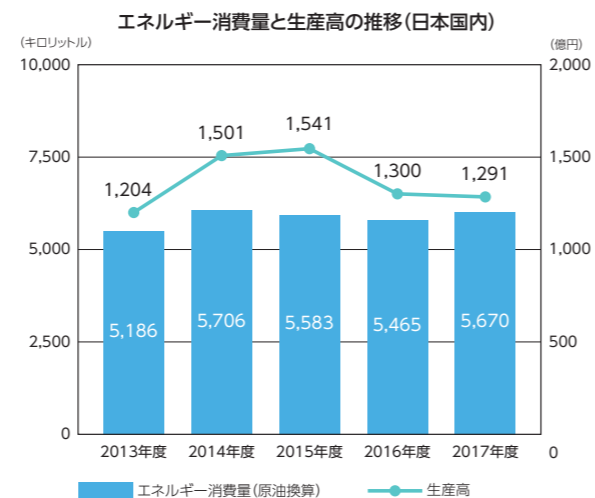
具体的には、志度工場に2,000平方メートルの太陽光パネル(最大出力260kw)を設置したり、志度工場に隣接する港を整備してバージ船を利用した製品輸送に取り組んだり、事業所での節電に努めたり、と取り組みを続けています。

なお、日本国内における2017年度のエネルギー消費量は5,670キロリットル(原油換算/エネルギー定期報告書届出値)でした。事業活動におけるエネルギー消費の大半が工場での生産



活動にともなうものであり、生産高の変化によってエネルギー消費量も大きく左右される傾向にあります。生産設備の高効率化やLED照明の導入など、今後も省エネルギーへの取り組みを続けます。

また、製品においてもエンジンの排ガス基準に対応したモデルチェンジや、各セグメントで低騒音・低公害のための機能を備えた「環境配慮型製品」を導入。ラフテレーンクレーンCREVO G4シリーズでは、環境に配慮した「燃料消費モニター」や「エコ・モード」機能を搭載し、CO₂排出の削減や、燃料消費量の改善、低騒音作業など作業効率と環境に配慮した操作をサポートしています。



バージ船による製品輸送



太陽光パネルの設置(志度工場)

文化財修復支援

タダノらしい社会貢献の1つとして「文化財修復支援」が挙げられます。「クレーンがあれば、倒れたモアイ像を起こせるのに」という現地の呼びかけに応える形で1988~96年に「モアイ修復プロジェクト」へ取り組みました。また2008年には奈良県の「高松塚古墳石室解体」で専用治具の開発など技術支援を行い、2018年2月には「ものづくり日本大賞」の経済産業大臣特別賞を受賞しました。同じく2008年にはカンボジア・アンコール遺跡修復のために製品の寄贈も行いました。



アンコール遺跡修復のための製品寄贈



モアイ修復プロジェクト



高松塚古墳石室解体の技術支援

科学体験イベントへの協賛・出展

「子供たちの科学離れを防ごう!」を合い言葉に、地元の大学等が開催する科学体験イベントに出展しています。

「この原理」「パスカルの原理」「滑車の原理」を学べる実験器具や高所作業車の試乗、空気圧で動く「スケルトンクレーン」操作などを体験していただきました。



夏休み親子工場見学会の開催

普段は目にする機会がない工場を見学し、当社製品に試乗いただくことで、お子さまにもものづくりや技術への理解・興味を深めていただくとともに、夏休みの自由研究の一助になればと考え、毎年実施しています。

2017年度も8月に志度工場で開催し、社内外あわせて44組の親子に参加いただきました。



ハートフルポケット

さまざまな社会活動を行う団体・個人に対し寄付を行う社員参加型の草の根支援組織として2007年に発足しました。会員となった社員は毎月の給与から100円、賞与から500円を献金し、集まった資金に会社からも同額を合わせて(マッチングギフト)、毎年2回の寄付を行っています。2018年3月までに、のべ46の団体に寄付しました。



献血活動等への協力

日本赤十字社の献血サポーターに参加し、年2回、香川県内の各事業所で献血を実施し、毎年400名を超えるグループ社員が協力しています。なお2017年度の献血者数は462名で、香川県の献血全体のおよそ1%にあたるそうです。

また地元大学や専門学校の看護学生およそ100名を対象に、臨地研修の受け入れを毎年行なっています。

